

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 28 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K00168

研究課題名(和文) 中世仏教美術における霊性の発生と継承に関する基礎的研究

研究課題名(英文) Fundamental Research on the Genesis and Realization of "Sacrality"(reisei) in the Buddhist Arts of Medieval Japan

研究代表者

山本 聡美 (Yamamoto, Satomi)

早稲田大学・文学大学院・教授

研究者番号：00366999

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、絵画史・彫刻史・歴史・文学を横断した分析を通じ、仏典が絵画・彫刻・厨子といった造形に表現され、そこに霊性が形成される過程を分析した。主な成果として(1)南宋時代に制作された「法華経变相図」(静嘉堂文庫蔵)と平安時代の「病草紙」との間に共通する図像が見出されること、(2)「愛染明王像厨子」(東京国立博物館蔵)に閻魔天と愛染明王同体説に基づく図像プログラムが用いられていること、(3)「地藏菩薩霊験記」(米国・フリーア美術館蔵)には女性の罪業と救済が主題となっており、その図像的伝統が鎌倉時代絵画に広く見出されることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

霊性という複合的要因で成立する事象を検討するため、関連領域の研究者が一つの造形を共に分析する調査や研究会の場を複数回設け、議論を深化させることができた。特に、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が、社会の仕組みに変容を迫り続けている状況下で、2020年度には、本研究課題の代表者や分担者へ成果発信の社会的要請が高まった。現代の科学や医学をもってしても除去不可能な生存への脅威に直面したことで、古典知としての「霊性」への社会的関心が高まった側面がある。一見すると、前近代的な思考方法である「霊性」の概念であるが、秩序維持の術として、現代社会においても一定の役割を担い得ることが浮き彫りとなった。

研究成果の概要(英文)：This project used a cross-disciplinary approach to investigate how "the iconography of Buddhist sutras" is conveyed in images like paintings, statues, and zushi (small shrines), particularly with regard to the genesis and realization of their "sacrality"(reisei). The major achievements are as follows:

(1) We found the same iconographic patterns in the Illustrated scroll of Illnesses (Heian period) and the Seikado-Bunko's Illustrated Manuscript of the Lotus Sutra (Southern Song dynasty). (2) We confirmed that the iconography in the Tokyo National Museum's Zushi of the Aizen Myo-o (Ragaraja, Kamakura period) was based on the theory in medieval Esoteric Buddhism that conflates the qualities of Yama with those of Ragaraja. (3) We concluded that the first scene of the Freer Gallery of Art's Miraculous Interventions of Jizo Bosatsu was organized around the theme of women's sin and salvation; we also concluded that the iconography of this scene is present in other paintings of the Kamakura period.

研究分野：日本中世絵画史

キーワード：仏教説話画 病草紙 法華経变相図 厨子絵 十王図 閻魔天 縁起絵巻

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

従来の美術史研究においては、作品の成立事情についての研究が重視される傾向にあり、成立後の使用実態や修理・改変に関する研究が十分には蓄積されてこなかった。一方、現代に伝えられた作品には、成立後何世紀にもわたって使用され、時に新たな機能や価値を付与されながら継承されてきた長い歴史が存在する。特に宗教美術について理解しようとする場合、成立時、また伝来過程においていかなる霊性がどのような仕組みで発揮され続けた結果、長期間にわたり継承され続けたのか、この点を通時的観点から明らかにする研究が十分には蓄積されていなかった。

そこで本研究では、先行研究においては個別に存在していた論点や方法を結びつけ、そこからの発展形としての、「仏教美術における霊性の生成と継承」という新たな論を立ち上げることを構想した。霊性という複合的要因で成立する事象を検討するため、絵画史・彫刻史・歴史・文学を専門とする研究代表者・分担者・協力者が一つの造形を共に分析する共同調査や研究会の場を設け、議論を深化させることを目指した。

2. 研究の目的

日本の中世文化には、古典を再構築しながら継承することへの強い関心が存在する。特に宗教的なイメージとテキストには、それらの霊性や効験を保証するためにも、先行する作品・図像・経典・説話・縁起などとの接続が不可欠であった。また、一度成立したイメージとテキストが新たな権威や規範となり、次世代の文化創造を誘発するという連鎖的構造も有している。本研究では、この動的かつ連鎖的構造に着眼し、個別の作品について「霊性がいかにして発生し、いかにして継承されたのか」という問いを立てることによって、仏教美術からこれまで以上に多くの学術情報を抽出することを目指した。

具体的には、中世日本で制作された仏像（厨子や像内納入品を含む）・仏画・寺社縁起絵（絵巻や掛幅）を主な研究対象とし、その成立時と伝来過程における霊性の発生と継承のメカニズムを、以下に示した（1）（2）の観点から解明することに取り組んだ。

（1）仏教美術が成立する際、その霊性はどのようにして発生し造形上のいかなる特徴となって現れるのか。典拠テキスト・図像・様式・成立背景の分析を通じた作品研究を蓄積する。

（2）仏教美術の伝来過程において、その霊性はどのように継承され必要に応じて変容を遂げるのか。周辺史料や儀礼空間との関わりから解明する。

3. 研究の方法

美術史を中心に、文学と歴史学の領域にまたがる研究チームを組織した。図像や様式の考察だけでなく、関連する縁起文・唱導資料・修復銘・寺院史史料・日記などの文献分析にも注力し、以下の（1）（2）の論点について、具体的には①～③の調査・分析を行った。

（1）院政期の都市空間と宝蔵によって生成・継承される霊性

院政期に開発された新たな御所・仏堂の複合空間である、白河・鳥羽・法住寺殿に着目し、そこで造営された仏堂や仏像、また宝蔵に収蔵された絵巻を分析対象とした。

①都市論……各都市間で継承される仏像や仏堂の特徴、規範とされた先例について検証。特に鳥羽の「炎魔天堂」を起点に、醍醐寺の「焰魔堂」、鎌倉の「閻魔堂」、さらに「閻魔天曼荼羅」（京都国立博物館等）や「愛染明王厨子」（東京国立博物館）へと受け継がれた信仰と造形を通時的に分析した。

②宝蔵論……鳥羽宝蔵と蓮華王院宝蔵に伝来した多様な収蔵品のうち、特に絵巻は後世「宝蔵絵」とも呼ばれ、王権の象徴としてその管理や出納には歴代の天皇が関与した。「地獄草紙」「餓鬼草紙」「病草紙」「辟邪絵」を中心に、宝蔵絵の成立と伝来について検討した。

（2）テキストによって生成・継承される霊性

③唱導資料を精読……願文や表白を含む唱導資料は、中世仏教美術の意味や機能を理解する手がかりとなる。ここでは、二十五三昧会に不可欠な六道講式の発展形式のひとつである仁和寺蔵『六道釈』に着眼し、聖衆来迎寺蔵「六道絵」の図像構成との関連を解明した。

4. 研究成果

2018年度

（1）作品調査：①代表者及び分担者と共同で静嘉堂文庫所蔵「妙法蓮華経变相図」の調査を行った。その後、本研究課題に関する第1回研究会を行った（2018年7月6日）。②同作品について、代表者が調査報告を行い、研究協力者（阿部美香、菅野龍磨）を交え、報告内容について検討した（山本「病苦図像の源流—静嘉堂文庫蔵「妙法蓮華経变相図」について」東京文化財研究所2018年度第7回研究会、2018年12月27日）。③代表者及び協力者（阿部）が、米国・フリーア美術館にて絵巻・掛幅（「融通念仏縁起絵巻」「地蔵菩薩霊験記」「六道絵（畜生道・天道）」「鶴の草子」「うたたね」「源氏物語絵屏風」「槻峯寺建立修行縁起絵巻」他合計20点）の調査を行い、同館で開催された国際ワークショップにて研究報告を行った（2019年3月18日～20

日)。

(2) 成果報告：①代表者が『看聞日記』に関する国際研究会に参加し、画中詞についての報告を行った(2018年9月15日～19日、於ハイデルベルク大学)。②代表者及び協力者(阿部)と共同で国際シンポジウム「Borders, Performance, and Deities (境界, 芸能, 神仏)」(2019年3月15日～16日、於コロンビア大学)でパネル発表を行った。発表内容は、山本「蓮華王院宝蔵「六道絵」の新解釈—阿修羅道としての「辟邪絵」、阿部「女院は越境する—境界の宗教空間を生み出す宣陽門院」。③代表者は、一般向け講座を実施し研究成果の普及に取り組んだ(2018年10月18日、於宮崎県立門川町立図書館等)。

2019年度

(1) 作品調査：①代表者が米国・John Weber コレクションにて「時代不同歌合絵」調査(2019年11月30日)。②代表者が大阪・弘川寺にて仏画・絵巻・縁起・近世絵画・絵図に関する悉皆調査に参加し、特に仏画と縁起文との相関関係について分析を加えた(2019年12月21～22日)。③代表者が、米国・メトロポリタン美術館にて「観音経絵」の調査を実施した(2020年3月2日)。

(2) 成果報告：研究期間の2年目にあたり、作品調査と並行して成果の発表・刊行を複数行った。代表者(山本)は『中世仏教絵画の図像誌』(吉川弘文館、2020年)を刊行し、経説絵巻・六道絵・九相図について、仏典や説話との結びつきと伝来過程における意味の変容を明らかにした。また分担者(加須屋)は『仏教説話画論集(上巻)』(中央公論美術出版、2019年)を刊行し、六道絵諸作例を中心に、図像解釈学の方法を用いた作品理解を深化させ、今後の説話画研究の基盤を整備した。その他、学会やシンポジウムでの報告を下記の通り実施した。①代表者が、国内及び国外の学会において、奈良国立博物館蔵「辟邪絵」について、五道説に基づく新たな解釈を提示した(2019年6月22日早稲田大学美術史学会/2019年10月10日 Premodern Japanese Studies Conference、カナダ・マギル大学)。②本科研にて研究会を開催し、分担者(井並)が、「佐竹本三十六歌仙絵」の画風・復元・伝来に関する報告を行った(2019年12月26日「絵画の再生—改装・復元・復元根拠」研究会、早稲田大学)。なお、本研究会は基盤研究(C)「日本絵画の復元研究における復元根拠の再検討」(JSPS:17K02310、代表者・鷹野佳世子)及び基盤研究(C)「絹本着色絵画の技法史的展開に関する研究」(JSPS:19K00218、代表者・京都絵美)との共催。③代表者が、国際シンポジウムにて「粉河寺縁起絵巻」における、聖地表象に関する報告を行った(2020年3月29日 Columbia University-Waseda University Symposium/Workshop in Japanese Literary and Visual Studies、米国・コロンビア大学)。

2020年度

(1) 作品調査：代表者は、研究協力者(菅野龍磨)とともに東京国立博物館にて「愛染明王像厨子」の熟覧と撮影を実施した(2021年2月22日)。

(2) 国際研究会：2016年から、日・独・仏・米・豪の日本美術研究者と協力して継続している『看聞日記』研究会を、2020年度はオンラインにて3回実施し、今後の成果報告の方法などを協議した。

(3) 成果報告：①本科研にてオンライン研究会を主催し、研究協力者の阿部美香氏と菅野龍磨氏による口頭発表を行った(2020年12月21日：阿部「六道釈を読む—聖衆来迎寺本六道絵と儀礼の詞」、菅野「東京国立博物館所蔵・厨子入愛染明王像について」)。②代表者は、本科研の成果の一般普及につとめ、和歌山県立博物館「国宝粉河寺縁起と粉河寺の歴史」展(2020年10月17日～11月23日)図録掲載コラムの他、NHK日曜美術館(2020年4月19日)、日経新聞朝刊(2020年6月30日)、NHKラジオ深夜便(2020年11月26日)など、過去の疫禍に関連した古典や歴史的観点からの提言を行った。さらに、小学生高学年向け教材『鳥獣戯画と絵巻物』(あかね書房、2021年1月)を監修し、研究成果をより広く社会へ普及することにも取り組んだ。③分担者(加須屋)は『仏教説話画論集(下巻)』(中央公論美術出版、2021年3月)を刊行し、十三世紀、十四世紀絵画論を進展させ、今後の説話画研究の基盤を整備した。また日経新聞朝刊(2020年7月31日～8月13日)にてコラム(「美の十選：地獄の教え」)を10回連載し、研究成果の普及に努めた。

特記すべきは、2019年末に発端し、またたく間に世界に蔓延した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が、社会の仕組みや私たちの日常に大きな変容を迫り続けている状況下で、2020年以降、本研究課題の代表者や分担者へ研究成果発信の要請が高まったことである。現代の科学や医学をもってしても除去不可能な生存への脅威、これに伴う諸活動の停止や制限に直面したことで、私たちの社会がコロナ禍以前から既に陥っていた無理や矛盾、持続不可能性までもが浮き彫りとなった。刻々と変化する状況のもと、人文科学に関わる諸領域においては、歴史的な視座で過去の人類が蓄積してきた古典知や人文知をひもとき、今般の事態に関わる経験や知恵を探索する試みが急速に活性化している。本研究課題に掲げた「霊性」とは、人間の手に負いきれな

い事象に対して神仏という回路を接続することで問題解決や秩序の獲得を目指す仕組みに他ならない。一見すると、前近代の社会でのみ有効であった思考方法のように捉えられがちな宗教的霊性の概念であるが、社会的混乱の收拾や精神的安定の術として、現代社会においても一定の役割を担い得ることが浮き彫りとなった。本研究課題を通じて中世の造形から析出することができた古典知を、積極的に活用し社会に還元することに今後も継続的に取り組んでゆきたいと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 山本聡美	4. 巻 430
2. 論文標題 「妙法蓮華経変相図」（静嘉堂文庫蔵）にみる南宋時代寧波の信仰と社会	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 美術研究	6. 最初と最後の頁 49-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山本聡美	4. 巻 65
2. 論文標題 フリーア美術館所蔵「地藏菩薩靈験記絵巻」第一話の主題 女性の罪業としての嫉妬と諍い	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 早稲田大学大学院 文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 347-359
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 佐々木守俊	4. 巻 0
2. 論文標題 仏像の聖性を保証する像内納入品の機能に関する研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 2017～2019年度 日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究（C）研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 4-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 井並林太郎	4. 巻 0
2. 論文標題 一遍聖絵と遊行上人縁起絵	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国宝一遍聖絵と時宗の名宝（展覧会図録）	6. 最初と最後の頁 215 219
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井並林太郎	4. 巻 0
2. 論文標題 総論 佐竹本三十六歌仙絵	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美(展覧会図録)	6. 最初と最後の頁 8 17
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井並林太郎	4. 巻 69
2. 論文標題 六字名号・一遍上人僧尼踊躍念仏図(金蓮寺蔵)について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文化学年報	6. 最初と最後の頁 329 347
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井並林太郎	4. 巻 46
2. 論文標題 遊行上人縁起絵の転写について 最古級断簡三図の検討を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究発表と座談会 一遍聖絵と遊行上人縁起絵(公益財団法人仏教美術研究上野記念財団 研究報告書)	6. 最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本聡美	4. 巻 53
2. 論文標題 宝蔵絵の再生 伏見宮貞成親王による「放屁合戦絵巻」転写と画中詞染筆	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 説話文学	6. 最初と最後の頁 115-122
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本聡美	4. 巻 53
2. 論文標題 「画中詞研究への視座 絵と言葉のナラトロジー」報告	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 説話文学	6. 最初と最後の頁 101-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井並林太郎	4. 巻 53
2. 論文標題 画中詞の「成立」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 説話文学	6. 最初と最後の頁 104-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 A journey to religious awakening: illnesses and pilgrimages depicted in medieval Buddhist paintings
3. 学会等名 Columbia University-Waseda University Symposium/Workshop in Japanese Literary and Visual Studies (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 五道説から六道説への転換 中世六道絵における阿修羅圖像の成立
3. 学会等名 PMJS(Premodern Japanese Studies Network) Conference, McGill University (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 鬼神道から阿修羅道へ 辟邪絵再考
3. 学会等名 早稲田大学美術史学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井並林太郎
2. 発表標題 『遊行上人縁起絵』の転写とその背景
3. 学会等名 研究発表と座談会 「一遍聖絵と遊行上人縁起絵」(仏教美術研究上野記念財団助成研究会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井並林太郎
2. 発表標題 佐竹本三十六歌仙絵の諸問題 画風・復元・伝来
3. 学会等名 「絵画の再生 改装・復元・復元根拠」研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 九相図 朽ちてゆく死体の美術
3. 学会等名 第87 回日本法医学会学術関東地方集会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 病苦図像の源流 静嘉堂文庫蔵「妙法蓮華經变相図」について
3. 学会等名 東京文化財研究所2018年度第7回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 蓮華王院宝蔵「六道絵」の新解釈 阿修羅道としての「辟邪絵」
3. 学会等名 国際シンポジウムBorders, Performance, and Deities (境界, 芸能, 神仏) 於: コロンビア大学(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 絵巻入門 物語を伝える色と形
3. 学会等名 北京外国語大学日本学研究センター絵巻セミナー(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加須屋誠
2. 発表標題 著者と語る(3) 加須屋誠氏 - 『生老病死の図像学』を中心に -
3. 学会等名 East Asian Classical Studies: 東アジア古典学の次世代拠点形成 国際連携による研究と教育の加速 -、於東京大学駒場キャンパス(招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 山本聡美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 476
3. 書名 中世仏教絵画の図像誌 経説絵巻・六道絵・九相図	

1. 著者名 加須屋誠	4. 発行年 2019年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 192
3. 書名 地獄絵ARTBOX	

1. 著者名 加須屋誠	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 432
3. 書名 仏教説話画論集（上巻）	

1. 著者名 加須屋 誠	4. 発行年 2019年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 232
3. 書名 地獄めぐり	

1. 著者名 高山寺、土屋貴裕	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 216
3. 書名 高山寺の美術	

1. 著者名 島尾新、宇野瑞木、亀田和子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 272
3. 書名 和漢のコードと自然表象	

1. 著者名 山本 聡美	4. 発行年 2018年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 224
3. 書名 闇の日本美術	

1. 著者名 加須屋 誠	4. 発行年 2019年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 274
3. 書名 記憶の図像学	

1. 著者名 岡山県立美術館編集	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岡山県立美術館	5. 総ページ数 48
3. 書名 『生きてゐる山水 廬山をのぞむ古今のまなざし』	

1. 著者名 本村昌文・加藤諭・近田真美子・日笠晴香・吉葉恭行編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ポラーノ出版	5. 総ページ数 458
3. 書名 老い 人文学・ケアの現場・老年学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>コロンビア大学にて院生参加型シンポジウム&ワークショップを共催 https://www.waseda.jp/inst/sgu/news/2020/04/17/7629/</p>

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	佐々木 守俊 (Sasaki Moritoshi) (00713885)	清泉女子大学・文学部・教授 (15301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	井並 林太郎 (Inami Rintaro) (80747329)	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部企画室・研究員 (84301)	
研究分担者	加須屋 誠 (Kasuya Makoto) (60221876)	京都市立芸術大学・芸術資源研究センター・客員研究員 (24301)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	阿部 美香 (Abe Mika)		
研究協力者	菅野 龍磨 (Kanno Ryoma)		
研究協力者	上野 友愛 (Ueno Tomoe)		
研究協力者	藤原 重雄 (Fujiwara Shigeo)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Columbia University-Waseda University Symposium/Workshop in Japanese Literary and Visual Studies	開催年 2020年～2020年
--	--------------------

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	Freer Gallery of Art			
ドイツ	Heidelberg University			
フランス	INALCO			
オーストラリア	The University of Sydney			